

研究計画書

ゼミ名	寺尾ゼミⅡ	チーム名	寺尾ゼミ 17 期生
タイトル	インターネットがあるかぎり「炎上」はなくなるのか？		
テーマ群	a) 理論・情報		
メンバー			
研究計画内容	<p>[研究の背景と目的]</p> <p>インターネットの普及は私たちに大きな利便性をもたらしている一方、かつては存在しなかった新たな問題を生じさせてもいる。その問題とは、「炎上」である。2019年の国内「炎上」件数は計 1,200 件という報告もあり、緊急事態宣言発出中の今年 5 月、自身が出演した番組での言動に対する SNS での誹謗中傷を苦にして木村花さんが自殺したことは記憶に新しい。私たちは、人々がインターネットを利用することに伴う「社会的費用」として「炎上」をとらえ、「炎上」を防止する仕組みを構想することとした。</p> <p>[研究の対象と方法]</p> <p>「炎上」は、(1) 拡散力が大きい情報通信環境の存在 (2) メッセージの送受信を低コストで実現するアプリケーションの存在 (3) 他者のメッセージを可視化するプラットフォームの存在 の 3 つを要件としている。これら 3 つの要件のもと、「サイバースケード（同意見の人がネット上で集積し、先鋭化する現象）」や「エコーチェンバー（コミュニティのメンバーの意見が過激化・固定化する現象）」によって生じるのが、「炎上」である。私たちは、人々がインターネットを利用して情報を発信する際のインセンティブに着目し、「炎上」が生じるメカニズムならびに「炎上」が防止されるための要件を明らかにする。</p> <p>[期待される成果]</p> <p>私たちの研究によって、「炎上」は、その便益が私的であるのに対して、その費用は社会的であることが明らかにされる。さらにまた、「炎上」を減少させるうえで実効性があるのは、インターネットを利用する人々の「意識」「心理」を変えることではなく、人々がインターネットを利用する際の「環境」を変えることであることも明らかにされる。これらのことから、私たちの研究は、「炎上」を防止する仕組みを社会実装することの一助となり、インターネットの社会的費用の減少につながることを期待される。</p>		